

社会貢献への想い

ブレーン・パワー株式会社

加藤 まき子

現在、個人的に社会貢献らしい活動は何もやっておりませんが、既に退会した国際ロータリークラブでの会員時代には、クラブを通して様々な活動に関わっておりました。

例えば地域のゴミ拾いや、春には「桜フェスティバル」を開催し家族に恵まれない地元の児童福祉センターの子供たちを招待したり、発展途上国に募金をしたり、貧困国の視力低下で困っている子供たちに現地の眼科医の指導の下で眼鏡を作り寄贈したりと、これらは団体だからこそ出来た社会貢献だったと思います。

個人で社会貢献やボランティア活動をやるとなると、まず何をやったらいいのか見当もつきませんし、また一人でやる勇氣もありません。社会貢献活動は強制ではありませんので、6月の掲載文に杉本さんが書いておられるように、自分ひとり位やらなくても何とかなるだろうという無責任な気持ちが芽生えるのも事実です。(杉本さんは今、いろいろな社会貢献活動をされています。)

社会貢献委員会の皆さんもそうですが、世の中には、どんな中傷や批判を受けても屈しない強い信念で、一人でも自主的にボランティア活動をしている素晴らしい人たちも沢山います。

その真摯な姿は少しずつ周囲に影響を与えていき、終には多くの人たちを動かすようになり、一人では到底なしえないであろう大きな功績を残すこともあります。

福岡県の「柳川」は、今でこそ水郷町として有名ですが、ちょっと前までは、どぶ川だったそうです。そのどぶ川は余りにも臭いので川を暗渠にしようという話が出ました。それを聞いた近隣の無名の人、広松伝さんが、どぶ川を何とかしなければという想いで毎朝一人で、どぶ掃除を始めるようになったそうです。

それを見た近所の方は、当初、顔をしかめ「臭いものを散らかすな！」と反対したそうですが、しかし広松さんの毎朝の一生懸命の姿に感動した人が一人、また一人と、どぶ掃除に加わり、今の観光スポット柳川になったという有名な話が残っています。

もし広松さんが、どぶ掃除をしていなかったら、

もし広松さんが周囲の批判に屈していたら、
もし誰かが柳川を暗渠にしていたら、

今の柳川の川くだりも
観光スポット柳川も生まれてなかったでしょう。

私の身近では、弊社社員の一人が「海守」という「きれいで、安全で、豊か」な日本の海を守るために設立された組織に入会し、海上保安協会や海上保安庁と協力しながら、船舶事故などの油の流出やゴミ等、汚染された海を定期的きれいにする活動をしているようです。

私も、小さなことから少しずつでも社会貢献らしいことが出来ればと思っているのですが、「言うは易し行うは難し」ですね。